

## 次期菰野町総合計画策定に関する意見まとめ

No	分類	資料	ご意見内容
<b>策定方針・策定背景について</b>			
1	現行総合計画の検証	4第5次総合計画実行計画	これから、第5次総合計画の達成状況を評価することとなるのだろうが、そのなかでも、特に、資料4-1第一次推進計画16頁地域コミュニティ支援事業について、また、資料4-2第二次推進計画6頁高齢者地域支えあい事業について、それらの総括ともいべき、資料4-3金額入りの第三次推進計画における5頁高齢者地域支えあい事業の効果測定を、また、15頁地区行事支援事業と地域コミュニティ支援事業との関係での効果測定をお願いしたい。
2	現行総合計画の検証		次期総合計画策定の土台について 現総合計画を振り返らなければいけないのではないかと。(推進計画 分類項目で実施しなかった事業はあるのか、その理由は etc) 現総合計画の改善・対応策は次期総合計画策定の非常に有効な土台となる(KPI指標があればベストですが、現場の経験値のヒアリングも大きなKFS (Key Factor for Success)となる)
3	策定の方向性	5策定方針	検証可能という点に拘り過ぎないこと。指標の設定は、進捗状況を把握し課題を明らかにするという検証可能というためには必要であるが、指標設定は、その達成が住民にも責任がある形のものを選ぶようにすべきである。行政活動だけで達成できる指標では意味がない。
4	策定の方向性	5策定方針	住民意識調査にとらわれすぎないこと。町全体で今後の時代状況に対応しなければならない価値にかかわる部分は、住民意識調査では出てこない。満足度と課題の重要度により、地域地区別、あるいは年齢階層別の分析により、施策重要度の「参考」に供する程度になるのではないかと。
5	計画期間と構成	5策定方針	計画期間は、10年でもいいかどうか。社会経済情勢の変化が速いこと、最近では、首長のマニフェストに合わせる必要があることなどから、例えば、8年もありうるのではないかと。
6	計画期間と構成		次期総合計画 構成について 役場内の組織編成に基づいた縦割り分類から協働分類へ見直すことを提案する(いくつかの具体的なテーマに分類し、そのテーマに対して「各組織が何をすべきか、何が出来るか」を明記する)」
7	策定の方向性	8基礎調査資料集	人口の見通しについて 5地区別の人口の見通し、世帯の見通しが必要。このことにより、特に、高齢者支援施策の重点の置き方が地域地区により変わってくる。また、介護予防・総合生活支援事業等での地域住民との協働のあり方も変わってくると考えられる。
8	策定の方向性	5策定方針	前段で「次期総合計画は、大きく変動する社会情勢の中で、…」と記述があることから、「(2)地域の特性を生かした計画であること」については、「(例)時代潮流を踏まえつつ、菰野町に住むことに愛着を…」と例示の趣旨に関する文言を入れた方が良いのではないかと思います。 具体的には、Society5.0と呼ばれるデジタル技術を活用した社会・経済の大きな変革が進んでおり、地域住民・企業や自治体も、こうしたデジタル技術を活用した変革が求められていると思います(菰野町のMaaS実証事業もその一例)。

No	分類	資料	ご意見内容
9	策定の方向性	8 基礎調査資料集	<p>《人口》1. 及び3. 人口(推計)について          前回策定時には、人口が微増していくことを前提としていたと思われませんが、今回の策定においては、人口減少を強く意識した計画づくりが必要であると思います。</p> <p>また、世帯人員の減少傾向が続くなか、今まで以上に、自助・共助・公助を理解して実践できるような計画づくりが必要ではないでしょうか。</p>
10	まえがき	素案	<p>町長のマニフェストを検証できるようにしていこうというときに、町長がやりたいと思っていたことが総合計画に反映されていることが必要になる。その意味で、町長の任期に合わせることは、一つの形式であり、やり方としてはよいのではないかと。</p>
<b>基本構想について</b>			
11	基本構想	7 町民アンケート	<p>アンケート:総合計画の認知度(年齢別)×将来像のキーワード(年齢別)を踏まえると、若年層の認知度が低い一方、将来像は町長も言及している「持続可能」を重要なキーワードとして捉えていることから、若者にも関心がある「SDGs」に関する内容を総合計画に織り込むなどしてもよいのではないかと。</p>
12	基本構想		<p>次期総合計画が「何のための計画」かを再考する          住民自治を実現する為には何が必要なのかを問う事も重要と考える</p>
13	基本構想		<p>次期総合計画が「何のための計画」かを再考する          公助・共助/互助・自助の意識改革が必要である(一部の住民アンケートの結果共有だけでは当事者意識は生まれないと感じます)</p>
14	基本構想		<p>町づくりのための「攻めの姿勢」を明記する          公共でしか作り上げる事ができない大きな構想案を示す事で民も関連し合える(町議会でも話し合われている「孤野富士整備」「ラドン活用」「医療環境整備」など、今ある議論をテーマにするなど etc)</p>
15	基本構想	検討資料	<p>3～5ページを6ページ以降に溶け込ませたいという考えは十分理解できるが、3～5ページの考え方が、6ページ以降に文言としてきちんと入っているかどうか確認する必要がある。</p>
16	基本構想	検討資料	<p>大切にしないといけないこととして、例えばSociety5.0の話や、SDGsの話は、すべての分野に共通する考え方として取り入れておく必要があるのではないかと。</p>
17	基本構想	検討資料	<p>「町民の一人として、あなたもこの町を支えていただくのですよ」というには、どういうことを考え、話し合っ、地域をこのようにするんだということを住民に浸透させないと、具体的なことが分かりにくいのではないかと。</p>
18	基本構想	検討資料	<p>今の時代に、「農業を基盤に培われた地域社会」は現状にそぐわないのではないかと。過去には、田植えなども、地元の人たちが出てやったり、農業が主力の産業だったということもあるかと思うが、違和感がある。</p>
19	基本構想	検討資料	<p>集中と選択は非常に大事なことだが、優先順位はどのように決めるのか。これだけの財政しかないところを明確にし、町民に考える尺度として物差しを与えてもらう必要がある。</p>
20	基本構想	検討資料	<p>町外で働いている人などに、どういう形で支え合うことに関わっていくのだという具体的なツールを示し、どういうものをツールとして話し合うのか、支え合うのかということ具体的に盛り込む必要があるのではないかと。</p>

No	分類	資料	ご意見内容
21	基本構想	検討資料	子どもたちを大事にするのか、高齢者に読んで欲しいのかの目線が大事である。絵を入れるなどして、イメージが「何か楽しくなりそうだな」「つらいけれども、頑張らないといけないのだな」と伝わり、つらくてもよくなるのであれば、菰野町に住もうと思うのではないかと。表現をもう少し変えていただくと良い。これだけ皆が皆がと言うのであれば、やはり皆が徹底的に分かる表現にしないと説明しづらい。
22	基本構想	検討資料	「コモノのコレカラ。」とは何なのだとこのところが、非常に分かりづらい。キャッチフレーズとしては異論はないが、もし使われるのであれば、こういう経緯で「コモノのコレカラ。」を使ったなどと書くことよいのではないか。
23	基本構想	検討資料	「人任せではなく、私たち自らが支えよう」という所は、私たち自らが何を支えるのかという目的語が必要なのではないかと。今後も持続可能な町を作っていくこと、それを支えることを目的としているのではないかと。この共通する指針の部分の主語は、書いていないけれども行政だと思う。そうすると、「今後このようにしていかないと、菰野町は持続可能な町として維持されていかないのだ」ということが、町の考え方だということ、少し強く言ってもよいのではないかと。今までのように主語が役場という計画から、「何々しましょう」という呼びかけの計画にするのであれば、「役場はこれだけのことは絶対やります。町民の皆さんも、これだけのことをやって、一緒に持続可能な町を作っていきましょう」というスタンスにするためには、「人任せではなく、私たち自らが今後の町を作っていきましょう」という呼びかけが最初であってもよいのではないかと。
24	基本構想	素案	「私たちが意識していること、私たちの共通目標」という形で、「住民自治と持続可能な行財政運営」を最初に掲げ、その後に基本目標の四つを掲げるという構成は斬新な気がする。これを最初に持ってきたことは、住民自治があるから行財政運営も持続可能であるのだということを使うことになる。
25	基本構想	素案	町議会の議決事件になることを前提に考えなければならないのであれば、議会との意見調整もお願いしておきたい。
<b>分野別目標について</b>			
<b>分野別目標全般</b>			
26	施策の方向		次期総合計画 構成について 誰もが「向かうべき道」「その先にある形」が分かるような具体的なテーマ設定が各分類項目に必要と考える(将来世代に引き継ぐ為に「チルドレンファースト」を目指します！etc)
27	基本目標、施策の体系	検討資料	「コモノのコレカラ。」を考える上で、住民自治あるいは協働というものを大切にしたいならば、なぜ今まで菰野町では、住民自治、地域共生などのものが、うまく流れに乗ってこなかったかということ、「縦割り」が非常に大きく関わってきていると思う。基本の部分が崩せないにしても、一歩進むならば、そこを飛び出したチームなり、地域協働を考える部署なりができることによって、大きく地域の共生、自治というものが進んでいく。教育、人権、文化をひとくくりの項目に置かず、それぞれ振り分けたことはよいが、その過程において、縦割りの部分が崩せなかったからというのは、あまりにも後ろ向きな選択肢ではないか。
28	基本目標、施策の体系	検討資料	これだけ高齢者、独居高齢者が増えていけば、昔のように、近隣で助け合うような仕組みを作っていけないとどうしようもない。行政はサービスのしすぎで、住民に仕事をお返ししてもよいのではないかと。書ければ書きたい。今回のコロナで、財政的には貯金を使い果たしている。例えば、水道管の更新は役場しかできないが、介護予防で菰野富士に登るイベントは住民ができる。個別計画を参考にしながら、今後の菰野町のこれからを考えたときに、こういう役割分担の具体的な事業が考えられるのではないかと。ところまで原課に書かせたらどうかと思う。苦境に立った財政状況を前提に、個別計画の役割分担をもう少し踏み込んで、幾つかのところで書くべきである。

No	分類	資料	ご意見内容
29	基本目標、施策の体系	検討資料	縦割りが難しかったということだが、国も子育てと教育を協働でという方向を向いている。アクティブラーニングの場として地域を使おうということは、コミュニティ・スクールという制度的な枠組み以外にも文科省が推進している。だから、地域活動において、子どもの発達段階に応じた参加の場が欲しいと思っている。直接参加し、いろいろな体験を地域でしていないと、選挙権が与えられても面倒くさいだけになる。そのような場として考えたら、子育て・子育て、教育、学校は三位一体で、ライフステージ別に変えていくことも必要ではないか。
30	基本計画(仮)の構成	検討資料	行政がどうしても縦割りに執念しがちな部分を、この会議としては、やはりいろいろな視点で再度検討してみる必要があるのではないかと。例えばライフステージでまとめてみる、地域というところでまとめてみるという幾つかのまとめ方が、今日は出てきたのではないかと。
31	基本計画(仮)の構成	検討資料	「みんなで作るまち」はそうせざるをえないが、そうすると、つい計画の中で地域に丸投げしがちな部分が出てきてしまう。地域に投げる過程で、行政が関わるべきことがあり、行政が地域にお願いをした以上は、行政が支えなければならないことは絶対ある。それをきちんと書き込めるような計画にしなければいけない。それをやってもらうことによって、例えば介護保険制度は、いわゆるセーフティネットとしてこれからずっと維持していくことを、総合計画の中できちんと表現ができていないと、やらされ感たっぷりのままである。その部分を、施策の中でも、少し詰めて検討していく必要がある。
32	分野別目標(防災、地域福祉、土地利用)	素案	75歳以上人口、85歳以上人口がどれぐらいになるという人口推計を入れておく必要があるのではないかと。支援を要する人の絶対数が大体どれぐらいになるのか、支え合いの福祉のまちが作れるのか、「現状と課題」に数字を入れるというわけではないが、常にそれを意識しておく必要があるだろう。
33	分野別目標(生活安全)	検討資料	どこまでを行政が行うのか。行政が行うべき範囲を明確にして、できないところを自治会が担うべきである。「支え合うまちづくり」というのであれば、計画には具体的なもの、数値的なものを落とし込んでほしい。
34	分野別目標(生活安全)	検討資料	団塊世代は希望を持って生き、団塊ジュニア世代は希望を持って生きていけると言われ、世代間ギャップがある。これを穴埋めするための情報が必要である。同じ世代同士で話し合うことで、一致団結してもらうことが必要である。
35	分野別目標(生活安全)	検討資料	高齢化社会だからと高齢者ばかりになるのではなく、今から生まれてくる人にも目を向けて考えるべきである。
36	施策の体系		体系図について、「推進」を「促進」に変えたということは主語が変わる。町民に放り投げたのかと問われる。例えば「取組の強化」などにすべきではないか。
37	分野別目標(生活安全、健康・福祉・都市基盤)	素案	障害の「害」の字がひらがなだったり漢字だったりしているので、どちらかへ統一すればよいと思う。
<b>共通目標(住民自治、行財政)</b>			
38	分野別目標(自治・行財政)	検討資料	0で始まる項目について、町民と行政の役割が必要なのか。行政がすべき当たり前のことが書いてあるように思う。
39	課題認識		防災や防犯の面で地域で助け合っていく上では、日頃からの地域のつながりというところで、高齢者を近隣の方が思いやり、見守る活動を持続していくことが必要である。
40	課題認識		災害が起きると、役場だけでは何もできず、消防団の役割は大きい。若い人に消防団に入ってもらい、自助、共助をつなげていくことが重要である。

No	分類	資料	ご意見内容
41	課題認識		自助、互助、共助、公助という言葉について、もう少し住民が自分ごととして捉えやすい言葉、キャッチフレーズのようなものを打ち出したい。かみ砕いた言葉で、積極的に住民参画しましょう、こうすればより良くなりますよということ問いかけるような啓発を織り込み、意識を変えていくことが必要である。
42	分野別目標(自治・行財政)	検討資料	前回計画の3-2-1土地利用にある「まちづくり協議会」をなくしてしまう理由は何か。学校教育、高齢者福祉など地域の課題が山積し、10年前よりも課題が進行しているのではないか。
43	分野別目標(自治・行財政)	検討資料	小学校区よりも小さな単位の取組、例えば「いいね大羽根」や「ふれあい竹永」のような取組は、区を中心としながらも別団体で進められ、社協が支援している状況がある。
44	分野別目標(自治・行財政)	検討資料	住民の帰属意識が、組－区－地区－町全体のどこにあるかというところ。福祉分野については、小地域では組織化しづらいので、小学校区の単位で支援策を検討している。
45	課題認識		「面倒くさくて簡単なまち」「面倒くさくて生きやすいまち」が良い。これをやらなければならないということは面倒でもちゃんとやってもらう。そのために会社の社長連中を上手く使ってもらえばよいのではないか。
46	分野別目標(自治・行財政)	検討資料	「広報」を「情報発信」としたが、行政側からの「充実」の部分が読み取れず、インパクトが弱い。もう少し、情報発信の多様化、時代に合わせた形など、踏み込んで書けないか。コロナ禍の中で、住民との対話の機会が限られるので、新たな形が必要であるし、発信は重要である。
47	分野別目標(自治・行財政)	検討資料	情報公開のための個人情報保護は前提として徹底すべきであり、「目指す方向」の中で、「情報公開を推進します」の前に、「個人情報の保護を徹底しながら」といった文言が必要ではないか。
48	分野別目標(自治・行財政)	検討資料	外国人に対し、情報がうまく伝達されていない。町民すべての方への情報発信が必要である。
49	分野別目標(自治・行財政)	検討資料	マイナンバーカードを活用し、情報サービスの充実につなげることはできないか。それが住民参画を進めるしくみになると良い。
50	分野別(持続可能)	8 基礎調査 資料集	《人口》1. 及び3. 人口(推計)について 生産年齢人口の減少は自治体税収にとってマイナス要因となることに加え、高齢化による社会保障等の負担が増加し、自治体財政を圧迫する格好となり、今まで以上に慎重な財政運営が必要だと思えます。
51	課題認識		民間会社の会議室を公に使える収入も入るようにはどうか。
52	課題認識		公共事業の入札の最低価格制度を撤廃して欲しい。どうしても割に合わない。
53	課題認識		移住や関係人口を増やし、地域産業にお金を落としてもらったり、住んでもらったりすることを考えてはどうか。コロナ禍のテレワークで場所を選ばないのであれば、環境の良い菟野町で、自然を見ながら仕事ができるという魅力をアピールして企業に来てもらってはどうか。
54	分野別目標(自治・行財政)	検討資料	税の納付は銀行・郵便局を通じてとなるが、銀行も通帳がなくなりつつあり、電子マネーなど「現金」も変わりつつある。ICTを進める中で、銀行口座での納付以外のチャンネルを増やすべきである。
55	分野別目標(自治・行財政)	検討資料	「効率的で責任ある行政」ということには「適切な行財政改革」が伴うべきで、官民の役割分担を見直す、というところまで書けると良い。サービスのカットによる大胆な行財政改革ということを書かないといけない時代になりつつあるのではないか。

No	分類	資料	ご意見内容
56	分野別目標(自治・行財政)	検討資料	高齢化に伴って社会保障費等の義務的経費が増加しており、効率的な行政運営のために、費用対効果を意識し、公共施設における使用料や手数料の適正化を行うべきではないか。
57	分野別目標(自治・行財政)	検討資料	他の公共施設にも関連することになるが、コロナ禍で、人口が増えてきた竹永地区のコミュニティーセンターについても、老朽化や広いスペースの確保から、改築要望を聞いている。保健福祉センターについても、空調設備の部品調達が困難となってきた。フロンガス規制の使用制限のある物の使用など、温暖化規制に反することもあり、改修工事を要する。
58	課題認識		税収の確保という点で、人口が減少していく中で、大きな広い圏域でやっていかないと、もう町として生き残っていけないのではないかと。その他の市町との協働、広域連携が重要になってくる。
59	課題認識		世帯数が多く、働いている世帯が多く住むところと、高齢化率の進んでいるところでは、地区の財政力が違う。町の公助の入れ方も変わってくると思うので、人口減少だけではなく、地域格差を生まないように考えて頂きたい。
60	課題認識		人口減少下でのまちづくりで行財政を運用していくには、行財政改革をやっていく必要がある。民間の人たちを入れ、こうすればもっと効率化できるのではないかという意見を行政の中に取り入れて、バージョンアップしていく仕組みづくりが必要である。
61	課題認識		民間会社の会議室を使うという意見について、地域に開放するということがあれば、住民一体となった活動ができるのではないかと。会社と住民が一緒になり、町と会社と一緒にいるということも考えていくべきである。
62	課題認識		1年2年かかっても絶対に達成するということを決め、徹底させて、成功体験を生むことが必要ではないか。
63	課題認識		意欲を持って働き甲斐がある仕事をするかしないかで全く仕事の質が変わる。色々な人の意見、他の町外からの意見を聞くにしても、自分の中のゆとりというものを一人ひとりが持っていないと、なかなか効率的に仕事を進めていけないので、庁舎で働く職員のケアというものも必要なのではないか。
64	分野別目標(自治・行財政)	検討資料	組織・機構に関しては、職員を育成するというよりも職員を「守る」イメージを持つべきである。働きがいを持って、仕事に取り組める環境にすることで、SDGsの観点からも持続可能な行政運営が可能になる。
65	分野別目標(自治・行財政)	検討資料	社協も組織の縦割り化が進んでいるが、特に非営利組織ほどその傾向が強い。専門化は必要ではあるが、その弊害もある。
66	分野別目標(自治・行財政)	検討資料	職員の仕事内容が住民に十分分かってもらえていないのではないかと。もっと、課の仕事内容を発信するべきである。
67	分野別目標(自治・行財政)	検討資料	病院では「総合診療科」をつくる動きがあり、専門科の医師のスキルアップにもつながっている。役場であれば、専門課の間に入るものとして「総合相談」のようなものが考えられるのではないかと。
68	分野別目標(自治・行財政)	検討資料	広域連携を進めるというのは具体的には何のために進めるのか。それが住民にとってメリットがあるものなのかどうか分からない。
69	分野別目標(自治・行財政)	検討資料	町民・地域の役割の表現で、「行政がやれる範囲を超えるものは、個人や地域でできることは個人、地域で行う。」は、日本語としてこなれておらず、自助、共助、公助の考え方もあっていない。「個人や地域でできることは個人、地域で行う。」ことを前提として、「行政は、個人や地域でできないことを担い、また、個人や地域で活動できるように条件整備に努める。」としたほうがよいのではないかと。

No	分類	資料	ご意見内容
70	分野別目標(自治・行財政)	検討資料	高齢者向けのICT教育も考えていくべきである。
71	分野別目標(自治・行財政)	検討資料	前回計画とどう違うのか。Society5.0を「取り入れる」と書く必要があるのか。「まえがき」でSociety5.0とSDGsが書いてあるが、これらは経済発展と持続可能という意味で真逆のことである。菟野町としてどちらの方向に向かうのか。Society5.0に付いていけない人は豊かになれないのか。
72	分野別目標(自治・行財政)	検討資料	Society5.0を町としてまずやるということがないと、他の項目にもつながらない。まず、この項目が先にあるべきである。町民に対しては強く言わないと、誰も関心を持たない。
73	分野別目標(自治・行財政)	検討資料	これは「適応力」という項目として整理しているが、例えば、災害の危険性に対してドローンを活用するなど、菟野町の特性に合った表現にしてみたら分かりやすい。
74	分野別(生活安全)	3第5次総合計画	感染症の発生・拡大予防にむけて道路の整備により各都市との時間的距離が飛躍的に短縮され、人の移動が大幅に増加しております。新型コロナウイルスの感染は人と人が接触することにより拡大しており、その終息が見えない状況にあります。この非常時へ対応ができるよう、危機管理体制の整備が必要である。
75	分野別目標(自治・行財政)	検討資料	災害対策であれば、自助、共助、公助で整理がつき、自助、共助の部分は日頃からの組織化、訓練を進めることになり、公助の部分はBCPに基づいて役割を果たすということになる。
76	分野別目標(自治・行財政)	検討資料	新名神などが整備され、他県からの受入がしやすくなる。菟野町としても受援体制、その基地としての役割を果たすことを示してはどうか。
<b>生活安全</b>			
77	課題認識		地域防災の充実、消防団員について、東南海トラフの発生が予想されるなか、菟野町においては、避難所対策が手薄になっているのではないかと。また、最近のコロナウイルス対応もできていない状態であり、今後、改良していかなければならない。
78	課題認識		非常時に地域で対応するため、防災ボランティア的なものの確保が重要であるが、高齢化社会であり、どれだけの協力が得られるか。有事の際に、どれだけ対応できるかが問題である。
79	課題認識		コロナ禍の中、感染症と自然災害が重なる「複合災害」における避難のあり方を構築していく必要がある。その解決手段として、できるだけ多くの避難所を確保すること、ホテルや旅館を避難所に活用すること、避難所におけるソーシャルディスタンスを確保することなどが必要である。
80	課題認識		「複合災害」を考える際、空き家対策として町が借り上げ、上手く活用していけば、万が一の時に避難所を確保できるのではないかとという視点もある。
81	基本計画(仮)－防災	検討資料	災害時には、個人の自助努力も必要だが、それを越えた部分のライフラインの確保といった大きな部分は行政に頼らざるをえない。その方向性を示していただきたい。
82	基本計画(仮)－防災	検討資料	災害時には情報が混乱すると思うので、連絡系統を確立し、どの情報を優先するのかということを確認しておいたほうがよい。
83	基本計画(仮)－防災	検討資料	DIGや避難所の訓練などの図上訓練を各自治会で取り入れ、子どもを交えて危険箇所を把握するなどの訓練をしてみたらよいのではないかと。

No	分類	資料	ご意見内容
84	基本計画(仮)－防災	検討資料	地域の避難所の中から、福祉的につながる方への対応として福祉避難所としての役割と、災害ボランティアセンターとの併用ができるかどうか検討しているが、大規模災害時の福祉的なニーズへの対応が一番大事だと思っている。
85	基本計画(仮)－防災	検討資料	感染症と避難ということ考えた指針を早急に出していただく必要があり、自分たちも考えていかなければならないと思う。
86	基本計画(仮)－防災	検討資料	避難所では女性のことを考えられる人が少ないとのことであり、各区で女性の防災リーダーをつくっていく方向が望ましいのではないかと。
87	基本計画(仮)－防災	検討資料	避難計画や防災のまちづくりにおいて、女性目線や定住外国人の課題、医療ケアが必要な人たちへの対応が反映されていないのではないかと。福祉と防災との関係が切れてしまっているのではないかと。
88	基本計画(仮)－防災	検討資料	せっかくの防災訓練の機会を活用し、ある程度、自助努力の必要などところについての方針を皆で確認するだけでも、意識が変わっていくのではないかと。
89	基本計画(仮)－防災	検討資料	避難所に関しては10年の計画ではなく早急に対応すべきである。時間もお金もかけるべき緊急性のあるものとそうでないものと分けるべきである。
90	基本計画(仮)－防災	検討資料	高齢者世帯、外国人など、町内にどういった方がいて、どういった形で避難対応したらよいかということの現状把握を早急に行い、災害に備えたほうがよいのではないかと。
91	基本計画(仮)－防災	検討資料	防災というと行政頼みの感覚が一番強いが、実は一番自助努力が効果的に働くところであるので、もう少し町民に自助努力を求め、そして、その自助努力から発展した互助、共助を求めていけることを行政から示していただきたい。
92	基本計画(仮)－防災	検討資料	救援をどのように受けるかという受援の計画を考えておかないとまずい。空き家対策の中でも、受援のための道路に面した所は、早めに除去しておかないといけないという優先順位をつける必要が出てくるのではないかと。
93	課題認識		老々介護や一人暮らし家庭が増加する中で、救急をどう見つけるか、把握するかということが課題になってくる。
94	課題認識		民と官の協力の視点を持ち、単に救急車需要が増えるから救急隊員を増やすというのではなく、重要度に合わせて救急車を呼び、地域で活躍しているタクシー、サービス業の人が運ぶということも考えて、できることは誰もがするという観点を持つことが重要である。
95	分野別目標(生活安全)	検討資料	町民の役割として救急救命講習を受けることを進めれば、身近に受講者がいることになり、いざという時にも安心である。それが住みやすさにつながるのではないかと。
96	分野別目標(生活安全)	検討資料	高齢層に対する救急の適正化を図るよりも、非高齢層に対してアプリなどを普及することで救急の効率化を図ってはどうか。
97	分野別目標(生活安全)	検討資料	消防団はかつて町内在住・在勤者でなければならなかったが、在勤者や学生など今ある力を発掘してはどうか。
98	課題認識		公共交通は安くすれば乗ってくれるというわけではない。必要ならば高くても乗ってくれる体制をつくるのも一つである。高齢者に限るのではなく、交通安全の観点から、高校生の通学利用も促していくとよいのではないかと。
99	分野別目標(生活安全)	検討資料	交通安全対策、エコな交通手段の視点から自転車についても考えてはどうか。菰野町は起伏があるが、自転車道についても検討の余地がある。
100	分野別目標(生活安全)	検討資料	高齢者の生活に関わるものであり、返納しても生活を続けられるという情報を視覚化して伝えることで、後ろ向きの気持ちも前向きになる。

No	分類	資料	ご意見内容
101	分野別目標(生活安全)	検討資料	交通安全は道路、公共交通と一緒に考えるべきテーマである。町は標識も横断歩道も造るだろうが、シートベルトの着用、横断歩道での一時停止は当然のことであり、交通ルールの遵守は町民に任せるべき内容である。ページとしてほしいないので、1つにまとめられないか。
102	分野別目標(生活安全)	検討資料	子ども・子育てや、通学などにフォーカスに当たっているが、高齢化が一番の外部環境変化であるので、「目指す方向」は高齢者も包括するようなものがあるべきではないか。
103	課題認識		消費者保護対策、防犯対策としては、情報周知のスピードが一番大事だと言われていることから、情報を共有し、一人ひとりが防犯意識を高めるとともに、いかに共助によって犯罪を防いでいくかが大切である。
104	分野別目標(生活安全)	検討資料	犯罪の防止、抑止を図るため、各区の境界において主要道路に防犯カメラを設置してほしい。
105	分野別目標(生活安全)	検討資料	学校との連携によって、学校での防犯教育を進めるべきであり、「目指す方向」に「地域防犯活動を促進します」と書いてあるのを、例えば「学校教育と連携して」などという枕言葉をつけてはどうか。
106	分野別目標(生活安全)	検討資料	「面識社会」の再構築が求められており、地域防犯活動は、面識社会を作ること目的として、地域防犯活動を推進することができる。
107	分野別目標(生活安全)	検討資料	情報提供のスピードアップが求められており、そのために若い世代に対してはアプリが重要となる。
108	分野別目標(生活安全)	検討資料	犯罪を起こさせないための教育が必要であり、いじめをしないなどの意識づけが大切である。
109	分野別目標(生活安全)	検討資料	特殊詐欺の手口を具体的に知らないため、だまされているのかが分からないのではないか。
110	分野別目標(生活安全)	検討資料	外国人に対しても生活の中でのルールなど、情報が正確に伝わるようにすべきである。
111	分野別目標(生活安全)	検討資料	目指す方向の3つが少しあいまいで、同じような方向に見えるので、もう少し具体的に書けると良い。
112	分野別目標(生活安全)	検討資料	地域での声かけが重要である。地域で子どもたちを育てていくという、そういう地域との連携も非常に大事ではないか。
113	分野別目標(生活安全)	検討資料	情報提供が重要だが、団塊ジュニアよりも下の世代は新聞やニュースを見ないので、役場や警察署、地域の情報をすぐに流すことが必要である。
114	分野別目標(生活安全)	検討資料	高齢化が進み、高齢者をターゲットとしたトラブルが増える確率が高まっている。同居家族への啓発を進める必要がある。
<b>子育て・教育、健康、生涯学習・スポーツ、福祉、人権</b>			
115	課題認識		若い世代の方が働きやすい環境を提供することは、その若い方が働くことによって高齢者の方を支えていくという意味でも重要である。子育てを社会で支えていくという中で、高齢者の方がどんどん活躍できる場ができれば、お互いに支え合っている。
116	課題認識		将来の町を支える子どもを産み、育てたいと思う方が、安心して、希望を叶えることができるようなまちが必要である。このため、若い世代が小さい子どもたちと出会って、子どもを産みたいと思えるような、素敵なまちだと思われるような環境づくりが必要である。

No	分類	資料	ご意見内容
117	課題認識		専門スタッフがその専門的なところに特化できるように、見守り的なところを前期高齢者にお願いしたい。つながりや居場所づくりが地域づくりにつながる。子どもたちも地域につながることで、地域に愛着を持ち、ずっと住み続けてもらえるという夢があると良いと感じる。
118	課題認識		地域で小金が稼げるような仕組みを作っていくべきであり、人がいないという場面を切り分けて、少しの時間だけは働けるというニーズとマッチさせていく必要がある。
119	分野別目標(子ども・人権・学習)	検討資料	子どもを取り巻く環境は変化しており、保育士など特に受け皿となる担い手が不足している。
120	分野別(教育)	8 基礎調査資料集	<教育・文化> 菰野小学校の児童数が多く不登校・いじめ・学業の遅れを懸念しておられる声を聞きます。校舎や学級を増やすことができなければ教員数を増やしてほしいと聞きます。
121	分野別目標(子ども・人権・学習)	検討資料	学校教育について、コミュニティスクールに向けた積極的な取組を進めるべきである。
122	分野別目標(子ども・人権・学習)	検討資料	町民・地域の役割の表現で、「コミュニティスクール等の取組を通じて、学校の運営や授業協力、クラブ活動支援等に参加する。」としたほうがよいのではないかと。
123	分野別目標(子ども・人権・学習)	検討資料	町長マニフェストでは中学校給食のことを言われていたが、それに絡んで食育の充実ということを書いてはどうか。
124	分野別目標(子ども・人権・学習)	検討資料	地域で守り育てるということについて、川遊びや生き物調査を通じて、自然の姿を知ってもらう取組をしている。子どもだけではなく親世代も自然のことを知らない。そこでは地域の人が「先生」となる。
125	分野別目標(健康・福祉)	検討資料	2-2の項目は目の前に実施すべきことがある。具体的に取組むことと必ずやるべきことがある。これに対し、長期的な視点のものもある。
126	分野別目標(健康・福祉)	検討資料	2-2-3と2-2-4はあえて分けずとも、目指す視点は共通するのではないかと。具体的には個別計画で対応すればよいのではないかと。自立できているのか、自立できず支えないといけないのかで方策が変わると思う。ただし、セーフティネットは除くことになる。
127	分野別(健康・福祉)	3第5次 総合計画	後期基本計画 2212:健康づくり予防対策の推進 国民の安全に対する意識が高まりをみせる中、自分たちの地域は自分たちで守るという連帯意識のもと、個々人が自覚をもって暮らせる町にする。
128	課題認識		年代によっても、自身の健康状態によっても違うが、やはり基本は心と体の健康が大事なので、その人らしく生活してもらうための健康状態を維持できるような環境づくりが必要である。
129	課題認識		生活困窮で困っている方の中の一つの問題点として、「引きこもり」が社会問題になってきている。心の健康という視点も大事であり、実態を知ることが必要である。
130	分野別目標(健康・福祉)	検討資料	地域包括ケアシステムの一環として在宅医療の内容があるが、どちらかと言えば看取りなどにつながる内容であり、この項目では介護予防のことを記載すべきではないかと。

No	分類	資料	ご意見内容
131	分野別目標(健康・福祉)	検討資料	健康マイレージの取組は「地域通貨」としての機能を取り入れることで地域づくりにもつなげられるのではないかと。
132	分野別目標(健康・福祉)	検討資料	介護保険の対象外になってくる部分が不安である。要支援者数の推移を見ていく必要があり、その方々には自助努力を期待したい。
133	分野別目標(健康・福祉)	検討資料	真の「健康」には身体機能だけではなく、心、金銭、家族(仲間)の4つの「K」が大切だと言われている。身体面だけではない心の部分の安定性、仲間づくり、生きがいづくりという部分にも、もう少し「現状と課題」のところでも触れていただきたい。
134	分野別目標(健康・福祉)	検討資料	健康については高齢者、障がい者にもかかわる内容である。項目として分ける必要があるのか。「元気」と「元気でない」ではいけないだろうが、2つぐらいにまとめられるのではないかと。
135	分野別目標(健康・福祉)	検討資料	健康だけではなく、地域包括ケアシステムも含んで考えていかなければならないが、予防や生活支援については「民」が主体となって行うべきものと位置づけておく必要がある。
136	課題認識		地域包括ケアシステムを推進していくうえで、新型コロナが大きな問題として入ってきており、今後、どういう形でシステムを構築するかが非常に大事である。
137	課題認識		支え合いの仕組みづくりが進んできているが、菰野で一つのものを作るというよりは、自治会ごとにその仕組みを作って、その地域に応じた、ニーズに応じた、寸法に合った仕組みづくりというのが大事である。
138	課題認識		自治会のまだ余力がある間に、自治会が中心となって、企業や何かやりたいと思っている人たちを集めてコミュニティをもう1回作り直すような作業をやっておく必要があるのではないかと。
139	課題認識		世帯数の減少に伴い空き家が増える。学童やグループホームという形での空き家の活用も、地域の「あるもの探し」の中では重要である。
140	課題認識		ITやAIといった新たなインフラがすごく発達してきていると思う。そういった視点も入れながら未来を考えていかなければいけないのではないかと。
141	課題認識		「5080問題」は10年後には「6090問題」になり、この10年でより顕在化することが予測される。
142	基本計画(仮)－地域福祉	検討資料	福祉といっても、対象の方によって対処方法が変わると思うので、そこを明確にしていかなければいけない。
143	基本計画(仮)－地域福祉	検討資料	コロナの影響の中で、根本に返った地域の助け合いの仕組みの再構築が必要であると認識している。そういう中で、生活困窮者への対応や相談窓口、外国人やろうあ者への情報発信・情報伝達も非常に大事だと思う。
144	基本計画(仮)－地域福祉	検討資料	多岐にわたるが、加えて、一人親家庭や他府県が実家の人なども取り上げていく必要はある。地域にどういう人がいるかを出しておいたほうがよい。
145	基本計画(仮)－地域福祉	検討資料	災害時のことが書かれているが、災害時よりも今の生活が大変だという人もいる。災害時の話は防災に書いて、「別紙参照」としておくべきである。
146	基本計画(仮)－地域福祉	検討資料	地域包括ケアは実は自己責任でやるようにと国が放り出した結果である。福祉や医療が逼迫していく中で、さまざまな状況の方に、それぞれの形で自立していただく自立支援対策を、これからの福祉として、積極的に一歩踏み込んで行っていただきたいと思う。

No	分類	資料	ご意見内容
147	基本計画(仮)－地域福祉	検討資料	困ったときに助けることができるのは、行政と言う前に、本当に狭い地域であり、組単位である。そこで、どこにどのような人がどのような状況で住んでいるかを知らないことには、助けようがなく、声のかけようがないのが現状である。まず地域での取り組み方があり、地域よりも少し大きい単位で、行政がさらにどのように助けるかを考えていただきたい。
148	基本計画(仮)－地域福祉	検討資料	高齢化社会は、向こう三軒両隣も皆高齢化してしまっているから、向こう三軒両隣よりももう少し広い地域設定がないと、共助の仕組みがうまく機能しないのではないかと。
149	基本計画(仮)－地域福祉	検討資料	「5080問題」が10年後は「6090問題」になるが、地域でいくら親しく関わっていても、なかなか年を取った子の引きこもりについては把握できない。向こう三軒両隣でも解決できる話ではないが、確実に大きな問題になっていくのではないかと。
150	基本計画(仮)－地域福祉	検討資料	介護や高齢者の問題が顕在化してきており、2025年を過ぎた後も、どんどん問題が膨れ上がっていくことは目に見えている。そこで地域共生社会が本当に実現できるのかどうか考えていく必要がある。
151	基本計画(仮)－地域福祉	検討資料	お金の使い方の線引きとして、誰を守るのかだと思ふ。高齢者が多くなるのであれば高齢者であり、先ほどの「5080」の問題も既に目に見えている問題である。これからを支えてもらうためには子どもに頑張ってもらわないといけないので、子どもを中心とした家族でもある。人が多いところに力を入れたほうが良いと思ふ。
152	基本計画(仮)－地域福祉	検討資料	介護保険などの共助については費用負担が発生するが、互助は費用負担が発生しない自発的な支え合いである。自助、互助、共助、公助の四つで、互助の部分をしっかり見ていけば、ずいぶん福祉の部分で負担が少なくなると思ふので、互助に対する認知を促していきたいと感じる。
153	基本計画(仮)－地域福祉	検討資料	元気な高齢者のネットワークがあまり作られていない。60歳ぐらいでネットワークを作り、その人たちが70歳、80歳になったときに「あそこに、こういう人がいる」などと、助け合えるような地域の仕組みを作っていくことを、役場でも、自治会でも応援していただくとういのではないかと。
154	課題認識		高齢者の方がどんどん活躍する場ができていけば、健康維持にもつながり、増大していく医療費の抑制にも効果がある。
155	課題認識		地域の中で、たとえ少し認知症になっても健やかに楽しく、今まで通り暮らしていけるというような地域づくりが必要だと思ふ。若い頃からの健康管理を積み重ねて、健やかな高齢期を迎えていただけるような活動を目指したい。
156	課題認識		少子高齢化の進展というのは避けて通れない日本社会全体の問題であり、地域や社会でどのようにそれを受け入れていくかというのが重要である。
157	課題認識		少子化による労働力の減少を埋めるという意味でも、高齢者をどんどん活用するべきである。
158	課題認識		介護に直面したときに、どこに相談を求めれば良いのか、住民の知識不足が不安である。支えるしくみが非常に分かりづらい印象がある。
159	課題認識		コロナ禍であろうがなかろうが、地域の中での見守りのしくみをしっかりつくっていかないと、家族だけでは無理である。
160	課題認識		福祉施策を支える人材が枯渇してきている。75歳を越える方が増えてきたとき、介護は本当に支えられるのか。

No	分類	資料	ご意見内容
161	課題認識		介護施設の入所と、医療の部分は当然町が支えていかなければならないが、総合生活支援事業を町や社協が担うのは無理だということを、10年計画の中ではうたっていかざるを得ない。
162	課題認識		地域の中で「あるもの探し」をするための話し合いの場づくりがまず必要である。コミセンを核として、子どもや子育て世代を含めて参加し、「あるもの探し」をする仕組みづくりが必要である。
163	分野別目標(健康・福祉)	検討資料	認知症高齢者については障がい者と同じように考えるべきではないか。一緒にしてもらったら困ると、お互いの意見もあるとは思うが。
164	分野別目標(健康・福祉)	検討資料	高齢者の活躍と言われているが、高齢者は活躍しないといけないのか。ゆっくり過ごしたいという人もいるのではないかな。
165	分野別目標(健康・福祉)	検討資料	町、社協がすべて担えるわけではないので、地区での支え合いが重要であり、5地区それぞれでの生活支援のしくみが求められる。例えば、ウーバー類似の車を走らせたり、配食サービスをやったり、元気な高齢者が、やや介護が必要になった高齢者を支えるような仕組みとしてできていけばよいのではないかな。
166	分野別目標(健康・福祉)	検討資料	地区での支え合いは「地域福祉」でも議論があったところである。地域包括ケアシステムとして一括して捉えてはどうか。
167	課題認識		障がいのある子どもを持つ親の「親亡き後」について悩んでいる方は非常に多い。グループホームを公設民営の形で建て、企業や社会福祉法人が運営するようなことを研究することも必要ではないかな。
168	分野別目標(健康・福祉)	検討資料	障がい者の自立と言われるが、就労していない人が多い。企業の協力を得て、就労の場づくりをしてもらいたい。町としても企業に対して理解・協力を促してもらいたい。
169	分野別目標(健康・福祉)	検討資料	リハビリテーション「体制」というほうが適切である。対策も含めるのであれば、その必要性を示すべきである。
170	分野別目標(健康・福祉)	検討資料	これまでの通院が不要不急だったことがコロナで明らかになった。2025年には医療費が逼迫することから、助かる命を助けるためにも、自立できる人には自助努力を求めたい。
171	分野別目標(健康・福祉)	検討資料	セーフティネットを維持するためという視点で、自助努力を求めることが必要である。
172	分野別目標(健康・福祉)	検討資料	国民健康保険は町施策として残るのか、確認してもらいたい。
173	分野別目標(健康・福祉)	検討資料	全体としては介護費のほうが伸びる。社会保障として適正化するために、ここに入れたほうがよいのではないかな。
174	分野別目標(健康・福祉)	検討資料	納められる能力があるのに保険料、保険税を納めていない人に対して、適切な徴収を進めるべきである。
175	分野別(人権)	8 基礎調査 資料集	「人口」1.及び3.人口(推計)について グローバル化・多文化共生社会の進展に伴い、訪日外国人や外国人住民が増加しており、言語や文化的背景の異なる外国人と共に暮らす多文化共生の考え方がますます重要となっていることから、多言語サービスや災害・疾病時の情報提供などに対応することがより一層重要となってくると思います。
176	分野別目標(子ども・人権・学習)	検討資料	多文化共生をもう一歩進めて、現在、投票権のない外国人住民が、税金の使い途に対する意思表示をできる機会を提供してはどうか。

No	分類	資料	ご意見内容
177	分野別目標(子ども・人権・学習)	検討資料	行政の役割のなかで、「外国人住民の意見を自治会より聞く」とあるが、現状、自治会に入っているか。別の手法もあわせて考えるべきなのではないか。
178	分野別目標(子ども・人権・学習)	検討資料	啓発活動の推進というのでは、世の中が大きく変わっているにもかかわらず10年前と変わらない。性差は存在するし、平等にはなり得ない。その一方で、第3号、寡婦制度というセーフティネットで守られている人もいる。女性の選択肢が少ないことが問題である。
179	分野別目標(子ども・人権・学習)	検討資料	既存の概念にとらわれていると何も変わらないのではないか。「どちらにも属さない」「言いたくない」が選択肢として入ることがスタンダードになりつつある。まず行政から変えていくべき。
180	分野別目標(子ども・人権・学習)	検討資料	人口ビジョンに関しても、女性が「生んでくれない」のではなく、「生ませてくれない」のだと言いたい。
181	分野別目標(子ども・人権・学習)	検討資料	三重県が検討している性自認の条例については意識しておいたほうがよい。
182	分野別目標(子ども・人権・学習)	検討資料	指導者不足と参加者の固定化、そしてまちづくりの中でも重要であるということは、まさにその通りである。
183	分野別目標(子ども・人権・学習)	検討資料	行政運営効率を考えたときに、生涯学習・スポーツを明記する必要があるのか。果たして、けやき周辺で町民が望むものが得られるのか。
184	分野別目標(子ども・人権・学習)	検討資料	地域間の不公平感もある。学校区単位の小さな地域で、子どもから高齢者までの取組にしていけば、地域のつながりの醸成にもつながるのではないか。
185	分野別目標(子ども・人権・学習)	検討資料	図書館は四日市市やいなべ市からも来館があり、満員になる。蔵書や資料館も充実している。高齢者だけでなく、学習環境も充実させるべき。
186	課題認識		スポーツや文化は生きていく上で絶対必要なものではないが、心身の健康、地域のつながりのためには非常に大事なものである。
<b>環境、都市基盤</b>			
187	分野別目標(環境)	検討資料	環境保全活動として、雑草に覆われた大土手に、芝桜を植栽する取り組みを行っているが、事業は植え付けることで終わるのではなく、始まりである。年間を通じ維持管理の体制が出来ないと花が咲かない。その維持管理に元気な高齢者の参加が必須である。
188	分野別目標(環境)	検討資料	町斎場についてはここに必要なのか。長寿命化というなら、公共施設の整備の中に位置づけてはどうか。
189	分野別目標(環境)	検討資料	リニューアルを考えるならば位置づけは必要である。それよりもお金のかかる清掃センターはこのぐらいの記述で大丈夫なのか。大人用おむつの増加で、ごみの質が変わっている中で、耐用年数にも影響が出るのではないか。
190	分野別目標(環境)	検討資料	町斎場の設備改修の記載があるが、0-2-1効率的で責任ある財政運営の目指す目標「②公共施設等の長寿命化を図ります」を「公共施設等の改築、大規模施設改修修繕等で長寿命化を図ります。」とすれば、斎場業務の記載は必要ないのではないか。

No	分類	資料	ご意見内容
191	分野別目標(環境)	検討資料	都市マスタープランにも関連して、菰野インター周辺は景観、環境への影響が関係してくる。意識的に自然に留意していく必要があるのではないかと。
192	課題認識		再生可能エネルギーとしての風力発電について、採算が合い、景観をあまり壊さないということであれば検討してもらいたい。
193	課題認識		太陽光発電パネルについて、20年後の後の処理が不安である。
194	分野別目標(都市基盤)	検討資料	何事も平等には難しいので、役場周辺に集約的な土地利用ができるのであれば、コミュニティバスの起点をつくり、道路などの環境整備と公共交通の利用促進をするという方向が打ち出せるのではないかと。
195	分野別(都市基盤)	7 町民アンケート	このような総合計画、その内容など知りませんでした。新名神高速道路 菰野ICができ、道の駅・菰野町役場周辺の開発計画、企業の誘致など世説を耳にします。どれももうわさ、願望のような話しです。
196	課題認識		道路沿いにつくる商店等の誘致や、音羽地区にできる工業団地において、極力、魅力のある企業を引っばってきていただきたい。
197	課題認識		インターチェンジを降りたところがまちの顔であるので、10年間の間にPRできるような顔にして欲しい。
198	課題認識		大きな企業が来ると、雇用も増えるし、良い点ではあるが、残念ながら、個人商店は後継者もおらず高齢化が進んで、商店街はどんどんお店を辞められていく。大きいところが来ると賑わいは出るが、ますます小さなところは消えてなくなる懸念がある。
199	課題認識		持続可能な地域の発展のために、自然を守ることなどを60代ぐらいの時間のある方にやってもらい、対価として地域商品券を配って、地域通貨で支出してもらい、地域内で循環するしくみをつくってはどうか。
200	課題認識		土地利用に関する制約について、「特区」的な協力を行政にしてもらえると、土地の有効活用が進むのではないかと。
201	課題認識		インターチェンジ周辺が誘客を望めるエリアになるのであれば、そういったところに菰野町全体を紹介できる施設というのがあったら良い。農業も商工も観光も、物販など産業を観光につなげられるような、町のインフォメーションというのが存在するとよいのではないかと。
202	基本計画(仮)ー土地利用	検討資料	獣害対策について、山沿いの菰野、千種、朝上は大変なことになっている。山沿いの農地を守るということは、この先本当に課題になってくるので、若い人に狩猟免許を取ってもらうよう補助金を出して対策をしないと、農業が続けられない。
203	基本計画(仮)ー土地利用	検討資料	菰野町の目指すべきところがはっきりしていない。この土地利用の推進においても、あれもこれもすべて取り込んでしまって、結局どこに向かっていくのかが分からない状況になっている。目先のものではなくて、長・中期的なマスタープランをしっかり練り上げていくことがこの機にできれば、先につながるのではないかと。
204	基本計画(仮)ー土地利用	検討資料	ここに関しては、町長の話が入っていないと誰も何も動けない。言わば、守るのが、人を呼びたいのかで大きく変わる。自然豊かにするのであれば、これ以上人を増やしてはいけないので、単純に森や木を壊したらいけないという話になる。観光であれば、観光をターゲットにした土地利用を大前提で変えていただく。そういう意味で問題認識と重点を入れた書き方にしたいと思う。
205	基本計画(仮)ー土地利用	検討資料	菰野インターの近くに市街化区域が認められたが、偏った世代の人口は、非常にいびつな行政需要を生んでしまうこともある。そういうことにならないように、段階的な人口バランスを考えていただきたい。

No	分類	資料	ご意見内容
206	基本計画(仮)－土地利用	検討資料	「自然と調和した土地利用を推進」するのは、何も担い手農家だけではなく、農地を預けた人にも責任がある。獣害対策は、網を張って、電気を通すだけでなく、そこを歩いてもらうことも必要である。ある程度皆さんで、人的活用というお金のかからない話で進めていただく方向はないのかと思う。
207	施策の体系		「自然と調和した土地利用の推進」の施策の分野別計画の「協働のまちづくりの推進」が削除された理由は何か。
208	施策の体系		土地利用の中なので、都市計画から来るまちづくり協議会のイメージを謳ったのであろう。その意味で言うと、都市計画関係のまちづくり協議会と、地区のコミュニティを中心としたまちづくり協議会とはちょっと別の性格があるので、地区のまちづくり協議会のほうのイメージを別途議論することになるのではないか。
209	分野別目標(都市基盤)	検討資料	地域の人しか知らない道路危険箇所が改善しない。避難経路になっている場合もあり、町全体として速やかに把握できる体制を構築すべきである。
210	分野別目標(都市基盤)	検討資料	カーナビによっては住宅地内を案内され、住宅地内を走ってしまうことになる。地域の方しか知らない朝晩交通量が多い所の危険箇所を、もう少し速やかに役場に上げられるシステム作りを考えていただきたい。
211	分野別目標(都市基盤)	検討資料	新名神は完成したが、今後も高規格道路は明示しておかなければならないのか。確認してもらいたい。
212	分野別目標(都市基盤)	検討資料	結果的に他地区の人も住宅地内を通ることになる。電柱、水路も含め、危険箇所の改善のために地主の人に協力を呼びかけている。
213	分野別目標(都市基盤)	検討資料	インターができて車の流れが変わるので、生活幹線道路の整備も、狭あい箇所の拡幅も必要である。広域幹線道路から生活道路まですべてを整備するのは現実的か。優先順位を考えるべきである。
214	分野別(生活安全)	8 基礎調査資料集	「都市基盤」高齢者の増加により、より地域公共交通の重要性が増してくると考えられることから、引き続き地域公共交通の利便性向上につながるようなまちづくりをしてほしいと思います。
215	分野別目標(生活安全)	検討資料	免許返納をすると移動できない人が増える。返納しても移動できるような電車、バス、タクシー、大羽根園でやっていたウーバー類似のシステムを組み合わせることで公共交通体系を作る必要がある。
216	分野別目標(生活安全)	検討資料	公共交通機関のシームレス化について、免許返納者をサポートし、分かりやすく導入できるような、伝わるような手段を考えていかなければならない。
217	分野別目標(生活安全)	検討資料	町民へのサポートについては、MaaSとの連動が求められる。観光MaaSやおでかけこものと連動したしくみが必要である。
218	分野別目標(都市基盤)	検討資料	鉄道、路線バス、コミュニティバス、デマンドバスとあっても、どうしてもドアtoドアは難しい。ウーバー類似のしくみも入れた、MaaSの具体化に期待したい。
219	分野別目標(都市基盤)	検討資料	MaaSをもっと大きくPRして、町内の利用も高めたい。そうすることで観光や医療・福祉にも役立てられる。モデルケースにもなるのではないか。
220	分野別目標(都市基盤)	検討資料	全国で19か所しか指定されていないものであるなら、町をあげて取り組むべきではないか。公共交通だけではなく、すべてにつながる話になると思う。
221	分野別目標(都市基盤)	検討資料	菰野高校前にコミュニティバスを通す計画であり、トータルに見直す必要がある。
222	分野別目標(都市基盤)	検討資料	MaaSについては、住民に情報を伝える手段としてアプリと連携して、うまく活用することが求められる。

No	分類	資料	ご意見内容
<b>観光、産業、文化</b>			
223	課題認識		ここ数年、温泉ガストロノミーというウォーキングのイベントをやっているが、廃墟の問題や災害による崩落地があり、手つかずになっており、長期的に環境整備を進めていただきたい。
224	課題認識		産業観光という考え方も必要であり、農業体験ができたり、ものづくりをしている商工業で工房見学ができたりすれば、町全体の観光というのが売り物になると思うので、農業、商工業、観光全て含めた観光への取り組みが必要である。
225	課題認識		ロープウェイだけでは弱いので、陶芸体験、農業体験、林業体験や乗馬クラブなど、総合的な観光のバランスを行政で調整してもらいたい。
226	課題認識		蛍の見学や収穫体験、語り部など、地域には協力できる人はいるので意識しておいて欲しい。
227	課題認識		「コト消費」につながる体験型の資源の情報を集め、SNSなどで発信していくことが重要である。
228	課題認識		あまり知られていないが、歴史的な景勝地、名勝、価値のあるものがあるので、そういうものを活かしていくべきである。
229	分野別目標(観光・産業・文化)	検討資料	コロナ禍の中で「ワーケーション」ということが言われているが、取り込んでいくべきかどうか。
230	分野別目標(観光・産業・文化)	検討資料	関係団体には企業を含むのか。アクアイグニスを含め、湯の山温泉の事業者と、ICTを使って新しいものを生み出すことが必要であり、連携してやっていくことが必要である。
231	分野別目標(観光・産業・文化)	検討資料	菰野町にとって、観光、温泉が重要なのは間違いないが、町民に対して、「もてなしの心が不可欠」とか「もてなしの心を持つ」と言われてもと思う。果たして観光のまちだと認識されているのか。
232	分野別目標(観光・産業・文化)	検討資料	観光においても自然が重要であるし、定住する人の多くは自然を求めている。どんな方向に向かうマスタープランとするのか。
233	分野別目標(観光・産業・文化)	検討資料	「モノ消費」から「コト消費」に変化している。従来とは違う見せ方も必要ではないか。そういう流れの中で、「おもてなしの心」を持ってくださいと投げかければ、もう少し理解が得られやすいのではないか。
234	分野別目標(観光・産業・文化)	検討資料	「マコモ」の自生地を保全しないと、ここ数年のうちに原生種がなくなるおそれがある。
235	課題認識		大規模な農家でも後継者は難しい。若い農業者を確保して、優良農地を守ってほしいと思う。
236	課題認識		獣害対策は農業者がいろいろやっているが、10年後を考えると大変である。
237	分野別目標(観光・産業・文化)	検討資料	三河地方の取組例として、海を守るために山で野菜くずを使って有機物を流す取組をしている。海も山もつながっている。広域連携で一体となって海も山も守ることを発信していけばよいのではないか。
238	分野別目標(観光・産業・文化)	検討資料	菰野町のクリーン大作戦では、今年度から伊勢湾浄化の一環として参加することにしていた。今年はコロナ禍のために中止となったが、今後も同様にしていける予定である。
<b>総合戦略について</b>			

No	分類	資料	ご意見内容
239	総合戦略	8 基礎調査 資料集	<p>≪人口≫2. 人口動態・人口流動</p> <p>菰野町周辺においては、交通網整備による利便性向上が今後も期待されるなか、社会増→定住に結び付けられるよう施策があっても良いのではないかと思います。</p>
<b>計画の推進・進行管理について</b>			
240	策定の方 向性	5 策定方針	<p>菰野町総合計画についての進捗状況のチェック</p> <p>計画の進捗状況を客観的に把握し、評価するための委員会(第三者的な立場・外部委員)の存在はありますか。</p> <p>計画の期間中、年度ごとに進捗を評価(例えば5段階など)してはいかがでしょうか。(住民目線でも理解していただけような。)</p>
241	町民参加	7 町民アン ケート	<p>上記に関連して、町の将来をみんなで話し合う機会への参加が若者層で「よくわからない」との回答者が多いことを踏まえると、策定された次期総合計画を基に、「持続可能」をテーマにするなどして、例えば若者向けワークショップを開催するなど話し合う機会の場を作って、総合計画の理解を深めて頂き、将来のまちづくりを考えてもらってもよいのではないのでしょうか。</p>
242	町民参加	7 町民アン ケート	<p>アンケートにおいて菰野町総合計画の存在を知らないという意見が多かったようですが、より多くの町民に認知されるように本総合計画が広報・周知されて行く事を期待します。</p>